

## Honda、次世代燃料電池システムの生産を行う新工場の立ち上げを決定 ～パワートレインユニット製造部（栃木県真岡市）の跡地・建屋を活用～

Honda は、2024 年 10 月に四輪車のエンジン部品などの生産を終了した、栃木県真岡市にあるパワートレインユニット製造部の敷地・建屋を活用し、自社開発の次世代燃料電池システムの生産を行う新工場（以下、新工場）の立ち上げを決定しました。

新工場は 2027 年度の稼働開始を目指します。また、自社開発の燃料電池システム専用工場の立ち上げは、Honda として初となります。

生産能力は年間 3 万基で、最新鋭の生産設備を導入し、高効率・高品質の生産を実現します。

なお、新工場の立ち上げを含めた次世代燃料電池システムの生産事業は、経済産業省が 2050 年のカーボンニュートラル実現に向けて主導する、GX<sup>※</sup>分野の国内製造サプライチェーンの支援を目的とした「GX サプライチェーン構築支援事業」に採択され、補助金を受ける予定です。

Honda は、燃料電池システム活用のコアドメインとして、燃料電池車（FCEV）に加え、商用車、定置用発電機、建設機械の 4 つを定め、水素事業を新たな事業の柱として成長させるべく、事業機会のさらなる拡大に取り組んでいます。

自社開発・生産する次世代燃料電池システムの強みを活かし、燃料電池トラック分野において 2030 年シェア 5%、野心的な目標として 2040 年頃にシェア 30%を目指して取り組んでいきます。

※グリーンTRANSフォーメーションの略称。カーボンニュートラルの実現に向け、化石燃料中心の現代社会をクリーンエネルギーによる社会へと変革していくこと。また、そのための取り組み

### ■新工場の概要

所在地	栃木県真岡市
生産品目	燃料電池システム
建築面積	28,901 m <sup>2</sup>
生産能力	年間 3 万基
補助金交付申請額	147.8 億円（最大）※予定

### ■参考

Honda の水素事業について <https://global.honda.jp/hydrogen/>